番号	キーワード	テーマ	講義者	学科及び職階	内容
P-1	リハビリテーション	健康を維持するための運動の必要性	藤川　智彦	健康情報学部／医療工学専攻　教授	ヒトの日常活動の維持には筋肉の活動が重要です。運動と健康維持には生活習慣が大切と言われます。ここでは生活習慣における筋肉の活動について説明します。ヒトや動物には必要な筋はどのようなものがあるのか？また、その筋活動のよる効果はどのようなものか？について紹介します。
P-2	リハビリテーション	骨格筋の活動を評価する	赤滝　久美	健康情報学部／理学療法学専攻　教授	走ったり、跳んだり、投げたりなどの大きな身体運動に加えて、ピアノを弾く指先の細やかな動きや、顔の表情変化などの微細な動きも、全て骨に付着する骨格筋の収縮で成り立ちます。筋の機能が低下することは人の健康維持にも大きな影響を及ぼします。本講義では骨格筋働きとその機能を評価する方法について解説します。
P-3	リハビリテーション	リハビリテーションについて・理学療法について	田中　則子	健康情報学部／理学療法学専攻　教授	リハビリテーションや理学療法という言葉は、最近いろいろなところで聞かれるようになってきました。これらはいったいどのようなものなのでしょうか。そして、人々が健康にいきいきと暮らしていくために、われわれにはどのようなことができるのでしょうか。ひとの動きや動作、そして生活に目をむけて考えてみましょう。
P-4	リハビリテーション	猫背になるとどうなるの？？	羽崎　完	健康情報学部／理学療法学専攻　准教授	良い姿勢とはどのような姿勢でしょうか？悪い姿勢とは・・・？ 悪い姿勢の代表である猫背になると、身体のあちこちにいろいろな弊害が生じます。 それらの弊害をひとつずつ、機器を用いて確認していきます。
P-5	リハビリテーション	介助のバイオメカ	越野　八重美	健康情報学部／理学療法学専攻　教授	人の動作を介助する際に、ただ持ち上げるだけでは介助者も介助される側も身体を痛めることがあります。人の動き方を分析し、それに沿って動かし行くことで安全で安心な介助ができます。それらについて解説します。
P-6	リハビリテーション	投げる動作のリスクとリハビリテーション	松本　光平	健康情報学部／理学療法学専攻　特任講師	スポーツは多くの人に親しまれていますが、繰り返しの動作や負荷によって怪我を引き起こすことがあります。特に野球では投球やスイングなどの動作が多く、肩や肘に大きな負担がかかりやすいです。野球を中心に、肩・肘の怪我のメカニズムを紹介し、スポーツにおけるリハビリテーションの実演を交えて解説します。
P-7	リハビリテーション	スポーツ選手のリハビリテーション	木村　佳記	健康情報学部／理学療法学専攻　教授	スポーツ選手の怪我からの復帰には、 診断、治療とともに科学的なリハビリテーションを行うことが必要です。 膝の怪我を中心にリハビリテーションの内容を実演を含めて解説します。